

LGBTQ+の問題の本質

藤田 桂子 JCM 代表

1 LGBTQ+の原因について

1) 性的指向は、自分が選んでいるのではない。

① 幼児期の親子関係の問題。

＊親との愛着の絆をうまく結ぶことができない場合は、特に同性の親が自分を拒否していると感じる場合は、自分は親に拒否されているのではなく、自分が同性の親を必要としないと考えて、自分の心を守ろうとする。その結果、同性の親の性別と同じである自分の男性性、女性性を否定する可能性が高い。

＊親からの愛着を求める心が、思春期に同性愛という形で満たそうとする場合が多い。

② 性的虐待、虐待を受けた。

＊自分を攻撃する人の性別を恐れることにより、その性別を避ける。またはこれ以上虐待されたくないで、愛することを否定する。父や男性から虐待を受けた女の子は男性を、また母や女性から虐待された男の子は女性を愛せなくなる可能性が高い。

＊異性との愛着が持てないが、誰かと親密になりたいと言う欲望により、同性を愛するようになる場合が多い。

③ 悪霊の影響による。

＊神様に敵対するものとして悪霊が、同性愛の奴隷にする可能性が高くなる。

＊①と②によって、怒り、憎しみなどで、心が支配され、奴隷となりやすい。

＊神様に造られた自分の性、自分自身を憎み、トランスジェンダーと信じさせる。

④ 性的指向は、クリスチャンになっても変わらない場合が多い。

しかし行動は変えることができる。15%は異性を愛することができるようになると言われている。

例えば、異性愛者が、異性を愛しました。しかしその相手が、結婚していると、相手の家族を考え、付き合うことや性行為をするなどの行動を止める。また、相手が中学生であれば、相手が成長するまで付き合うことや性行為をするなどの行動を待つように行動を変える。もし行動を変えなければ、訴えられたり、犯罪者にされたりするだろう。その異性愛者のその人に対する思いが変わったのか？ いいえ、相手を思いやって自分の気持ちを押さえて我慢するのである。これは人としてルールを守ること、みんなが幸せに生きるための配慮である。そしてLGBTQ+であっても、異性愛者であっても、人として安全な社会を保つために必要なことであり、そこに差別はない。

☆ 女性や子どもや弱い人々の守りのスペースに入ることを権利だと主張する活動家やトランス女性の行動は、人として相手を思いやる、または犯罪の可能性を避けるという考えを無視した暴力であり、虐待だと思う。男性の領域に入れないトランス女性のためには、日本は多目的なみんなのトイレがあり、肉体的にも、精神的にも安全にトイレを使用でき、女子トイレの混乱も避けることができる。当たり前のことが、差別であるという声によって消されることが異常である。

⑤ 幼児期の性別違和が、LGBTQ+を決定するものではない。

＊性別違和は、だいたい3歳前後、幼児期に親との愛着を結ぶ時期に、性別違和が現れる場合が多い。それ以降も虐待などさまざまな理由によって持つと言われる。

＊幼児期の性別違和が適切な対応を受けない場合は、15%がトランスジェンダーになり、70%が同性愛者になり、15%が自分自身の性を受け入れた人になる。ただし幼児期に適切に対応されると性別違和が多くの場合無くなる。

2) 学校での過激な性教育とLGBTQ教育の問題

- ① 幼児期～10歳ぐらいまでは、自分自身の性同一性を確定する大事な時期である。性同一性は、その後の思春期や第二性徴の心と体の変化に対応するための土台となるのである。しかしその時期に、性同一性を否定するような、男性でも女性でも自分でなりたい性を選べるという嘘を教えることは、子どもへの心の発達、親との適切な愛着を結ぶ大きな妨げとなる。

- ② 思春期に偽情報を教えることにより、青少年少女に不安と混乱を与える。

＊思春期は自分自身が何者かを考える時期であり、体の変化も含め悩むことが多い。その時期に、異性に変われるという偽情報によって、自分の悩みの問題はトランスジェンダーだと信じるようになる。そして自分を受容する人々の言うことを盲目的に信じて、思春期ブロッカー、ホルモン治療、性転換手術（去勢手術）を行うように導かれる。この流れを欧米の学校教育、教育委員会が医師と一緒に進める。保護者が子どもの治療を始めることに、もう少し考えるように助言したり、反対すると、子どもへの虐待とされ、親は子どもを取り上げられ、ホルモン治療や手術が勧められ、行われる。その後、子どもはホルモン治療や手術では、男にも女にもなれない現実と手術の後遺症に苦しみ、自殺が多くなる。また騙されたことを知った子どもの中には、デトランス（異性になることをやめること）を選択して、学校や医師を訴える裁判が起きている。しかし、変えた体は元に戻らない。これが日本で起こることを考えると、取り返しのつかないことであり、命に関わることなのでなんとしても止めたい。

- ③ LGBTQに対する学校教育の内容は欧米の活動家によって進められる。

この法案に反対する当事者の意見は無視して、このLGBT理解増進法が可決されたのは、日本人がこの法案を通したいのではなく、米国からの命令で緊急に可決された。日本を破壊したい人々と医療で金儲けしたい人々の力によって、学校関係者や保護者が反対しても、無理やり法律を作り、学校のカリキュラムの中に強制的に入れられたのである。そのカリキュラムの内容は、欧米からのものである。つまり、欧米と同じことが起こるのだ。それにもかかわらず、強制的に進められる。現在欧米では、このような洗脳教育は問題視され、中止されつつあるにもかかわらず、今年から進めているのは狂気の沙汰である。被害に遭うのは、日本の子どもたちだ。それでなくても、日本の思春期の子どもの死因の第一位は自殺なのに。

- ③ 欧米のデータでは、LGBTQ教育が学校で始ることによりトランス男子が急増。

＊少女のトランスジェンダーが、異常に増えている。スウェーデン、カナダ、オランダの臨床医の報告によると、性別違和は2006年まではトランス女性になりたい男子が多かったが、その後、トランス男性になりたい女子が劇的に増えている。

（トランスジェンダーになりたい少女たち・アブゲイル・シュライアーP67より抜粋）

＊イギリスではジェンダー医療を望む10代の少女の数が、過去10年の間に4400%増加したとの報告があった。（Gordon Rayner, "Minister Orders Inquiry Into 4.000Percent Rise in Children Wanting to Change Sex" Telegraph. 2018.9.16.）

＊脱トランスの人々も多く、重要なことは、大人になり、このような症状が解消される割合は50～98%ととても高いことだ。（Michael Laodaw. MD Endocrinologist (内分泌科医)

<https://x.com/xMofMofxx/status/1751174762922209554>

- ⑤ LGBTは、生まれつきで一生変わらないという嘘を教える。

＊トランスジェンダーであると主張するが、体の反応は生まれ持った性を示している。性的指向を研究している心理学者は、視覚への刺激による男性器や女性器の観察可能な生理反応を調べると男性に適切な種類の画像を見せれば、その人が言う前に、その画像によって彼が何を感じているかを体が正確に教えている。（トランスジェンダーになりたい少女たち・アブゲイル・シュライアーP84より抜粋）

- *同性愛者は生まれつきで、どんな治療をしても絶対変わらないと言われていたが、今はゲイやレズビアンからトランス男性、トランス女性になる人々が多くいる。カバちゃん、りゅうちえる、など。それで最近は流動的な場合もあると主張している。活動家の主張は、コロコロ変わる。
- *マツコデラックスは、ゲイであり、女装しているだけ。トランス女性ではない。

⑥ LGBTQ+を宣伝する人々は、活動家であり、当事者の代表ではない。

- *ドラッグクイーンは、ゲイで過激な女装をして人々である。LGBTQをプライドパレードでアピールする活動家が含まれているが、トランスジェンダーの当事者の人々は、あの性的露出度が高い人々が、トランスジェンダーだと誤解されることを嫌う。彼らが、なぜ、学校にやってきて、LGBTQの理解のための講演をするのか？ 彼らは活動家で当事者の代表ではない。

3) DSDs（性分化疾患）をLGBTQ+が生まれつきだと信じさせるために利用する。

① nexdsd Japan の声明文 (<https://www.nexdsd.com/family>)

- *【声明】私たちは「男女以外の第三の性別欄」を求めています。

日本性分化疾患患者家族会連絡会として、パスポートや戸籍、その他性別欄での「男女以外の性別欄」について声明文を発表しました。

今回、アメリカでのパスポートに男性・女性以外の第三の性別としての「X」欄が設けられたというニュースがいくつかの報道機関によって報道されました。中には「男女両方の特徴」という誤った説明をする報道機関もありました。

DSDs：体の性の様々な発達疾患（性分化疾患）に対しては、社会では「男女以外の性別」「男女両方の特徴」など、神話的な両性具有イメージで見られることが多いです。ですが、実はなによりも私たちは、自分の体の状態が、世間の人々から「男でも女でもない」「男女以外」であるかのように見られてしまうということこそを恐れて生きているのです。

- ・国際的な当事者人権支援組織も、私たちのような体の状態がまるで「男女以外の第三の性別」であるかのような誤ったイメージを広めたり、私たちの身体を使って男女以外の性別欄を求めようとすることは、DSDsを持つ子どもたち・人々を他の集団の人々の道具のように扱うことであり、私たちの生活と人生に広範囲の害を与える危険性があると表明しております。
- ・現実に、学校でのLGBTQ等性的マイノリティの皆さんについての授業で、DSDsを持つ人々がまるでグラデーションの中間の存在であるかのような説明をされて、不登校になった当事者の女の子のケースや、男女以外に「その他」が設けられているの性別欄を見て、自殺未遂に至った当事者の女の子の相談も受けている状況です。

【声明】「体の性のスペクトラム（グラデーション）モデル」は人権侵害です。

- *LGBTQ等性的マイノリティの皆さんの説明において、以前から「体の性も性分化疾患の人たちがいるからグラデーション」という説明がされることがあります。ですが、学校で体の性にもグラデーションモデルが使われた授業で、不登校になったDSDs当事者のお子さんについての相談も受けている状況です。

「体の性のグラデーション（スペクトラム）モデル」は、DSDsに対する古い偏見を助長するだけでなく、DSDs当事者の子どもたち・人々の大多数に、二次的なトラウマを与えかねないものです。現在「体の性」に対してグラデーション（スペクトラム）モデルをお使いの方は、どうかすぐにおやめいただき、もし知り合いの方でまだご存じない方がいらっしゃいましたら、広くシェアいただき、理解をいただけるよう、お力を貸して頂ければ幸いです。

② **DSDs：性分化疾患**とは、染色体、生殖腺、もしくは解剖学的に性の発達が先天的に非定型的である状態のことで、「男でも女でもない」「中性」「第3の性」のことや、トランスジェン

ダーの人々や性自認のことではない。DSDsは「様々な体の性の発達状態」を表す医学的用語で、男性・女性・それ以外などの「gender(性別)」を意味するものではない。

＊LGBTQ+のカテゴリーに本来加えるものではなく、DSDsを持つ人々は現実には、染色体や性腺、子宮などの内性器、ホルモンなどの状態が一部違うだけの、ただの男性、あるいは女性であり、何ら特別な存在ではない。大多数の当事者は、男性と女性の区別(男女二元制)について疑問を投げかける必要性を感じていない。

＊DSDsを持つ人々を利用して「生物学的にも 男女の区別はない」とするのは、その人の極めて私的でセンシティブな「性器」という領域を、その人の意思に反して取り上げようとする人権侵害になる。ジェンダー(性別)の問題ではない。また性的指向・性自認(SOGI)の多様性の問題と混同されることによってDSDs当事者が傷ついている現状がある。

＊LGBTQ+を教える中で、意図的にDSDsについて間違った、または誤解を招くことを教えることによって、当事者とその家族を傷つけることになることを知らなければならない。

③ DSDsには、多くの病名がある。

- ・ クラインフェルター症候群：男性の染色体が(XXY)である。
- ・ アンドロゲン不応症：XYの染色体を持つ女性
- ・ ターナー症候群、スワイヤー症候群：性腺発育不全により起こる病気。
- ・ 性染色体モザイク：細胞の性染色体モザイクの場合
- ・ カルマン症候群/性腺機能低下症/視床下部性腺機能低下症：

④ DSDs：クラインフェルター症候群：当事者の声

自分の意思とは関係なく、体が女性化していく混乱があったと。

青木歌音の動画：https://www.youtube.com/watch?v=tgh2iK_urs

<https://www.youtube.com/watch?v=x40Tv19toZ4>

<https://www.youtube.com/watch?v=7kZSpvEo99o>

2 活動家がLGBTQ+を無理やり推進する目的

1) 国を崩壊させるために行われている

① 活動家によってLGBTQ+が、欧米では多くの被害と対立を生む。

＊保守的な家族や結婚を願う人々に対して、新しい家族の形を認めさせようとする。

同性婚、同性婚の養子縁組、そして今後、幼児性愛、ポリアモリーなどが、合法化されようとしている。

＊男性の性器を持ったトランス女性による女性スペースの侵入と女性と子どもの安全なスペースを守る人々との対立。トイレ、更衣室、公衆浴場、温泉での対立。すでに犯罪が起こり、被害者がでているが、裁判官が犯罪者を守ることでの対立も深刻な問題である。これは日本でも今起きている。

☆ トランス女性でも、本当のトランス女性はこのような犯罪は犯さない。

しかし、活動家は明らかに犯罪を煽り、犯罪者を無罪にすることによって 本当のトランス女性に憎悪を与えようとしている。

＊トランス女性による女性スポーツへの参加を認めることで、体力的に差がある生物学的女性との対立。男性とでは力の差が出る女性の領域に入り、女性の勝利を奪うことは差別である。生物学的男性に女性は勝てない。これも法律で認めることで、公正を失わせている。

② 言葉狩りによる洗脳：ポリティカルコレクトネス（政治的正しさ、妥当性）

＊差別は良くないと言う理由で、巧妙に入ってきている。

- ・心身障がい者など、弱者に対する差別や偏見を助長する言葉は使うことをやめるべきだ。男女の性役割の固定化を進めないようにしよう。
- 看護婦→看護師、助産婦→助産士、スチュワーデス→キャビンアテンダント、など。
- このままだと、日本もありえないアメリカのようになっていくだろう。

＊米国下院議会で2021年1月から「母、父」など性別を規定する言葉の使用は許されなくなった。

(「ポリコレの正体」福田ますみ 著 2021.12.10 P5より抜粋)

つまり、兄弟姉妹、夫妻、叔父叔母、祖父祖母は言えない。父母は親1、親2というのである。この議会の決議は、かなり狂っていると思う。男女の区別はあるのに、差別だと言葉を置き換えて、赤ちゃんは、パパママと言えなくなるのである。これは幼児に対する差別で、虐待ではないか？ 親1 (first Parent)という難しい言葉を赤ちゃんは言えない。親を呼べないことになる。

- ・言葉を奪うことで、実際にある区別を見せない、考えさせなくさせる。
 - 言葉狩りをする活動家と言葉を大切にしたい人々への対立。
 - ・活動家は聖書と聖書の神様を攻撃するために、言葉狩りをする。ジェンダーは多くある。
- 創世記1：27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして
彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。

キリストの祭り(Christmas)：メリークリスマス→

キリストを抜いた言葉：ハッピーホリディ、Season's Greetingsなど。

④ 活動家はトランス女性や男性が、自分を主張することを差別だとは言わない。

男性、女性という区別があるので、自分は男性である、女性であると判断できるはずである。男女の違いを語ると、LGBTQ活動家は男女の区別がないと主張する。しかし「トランス女性やトランス男性」の言葉は認め、「ゲイやレスビアン」も使うべきでない言葉のはずだが、ここは議論しない。言葉狩りは差別の問題ではなく、ただ社会に混乱を与えるためのものである。

2) 敵は悪魔であり、目的は神様の愛する人を苦しめ、破滅させること。

敵を知って戦わないと、防御できなくなり、敵の攻撃に敗れることになる。

敵が悪魔なら、神様の子どもである私たちが神様の力によって勝利できる。

① 神様に似るものとして造られた人を破壊すること。

神様は人を男と女に造られ、家族を作るようにされた。しかし、男女のイメージを壊し、性的少数派の権利を他の権利の上に置き、洗脳して騙し、虐待して、子どもたちの精神を不安定にして混乱と怒りと恐れによって縛り、奴隷にする。

② 子どもたちを怒りと恐れに奴隷にし、暴力と破壊へと導く。

安心は、囲い（守り）がないと持つことはできない。すべての囲いがなくなると不安と恐れがくる。LGBTQ教育(クイア理論教育)により、思春期になった子どもたちが、言葉に出すことができない怒りに支配されて巻き込まれることになる。少なくとも敵は混乱と革命の下準備として世界中で準備している。

＊テレサ・デ・ラウレティスが「クイア理論」を提唱した後、異性愛中心主義の社会において、抑圧されたり、弾劾されたり、無視されてきた多様な性を生きる者が連帯するための画期的な理論として受け入れられた。ウキペディアクイア理論より

＊問題はどこまでの多様が正常と判断されるのか？ クイアの意味は変人である。

＊クイア理論に対して警鐘の意見もある。「規範に対し徹底的に抗うことは、自己や集団そのものの統一性を崩壊させるような「危険」に身をさらすことにもなる。

切った刀で自分自身をも切りつけてしまう「危険性」をクイアの思想ははらんでいる」

(「クイア・スタディーズ」河口和也 著 2003/12/19 前書きより抜粋)

③ 神様が与えられている結婚と家族の祝福と秩序を破壊する。

人々に苦しみと死を与えるために、この活動がある。性的墮落によって、婚前交渉、同棲、浮気、不倫、離婚などにより、家庭は崩壊され、多くの子どもたちが平和で安全な家庭を奪われた。平和で安全な家庭を知らない子どもたちにとって良い家庭を作ることは難しく、悪い連鎖が作られている。

3) 神様の喜ばれないこと、忌み嫌われることは罪である。

① 背教：聖書を否定する、神様に逆らう人々が現れることは、終りの時代の印。

2テサロニケ2：3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。

なぜなら、まず背教が起こり、

辞書：背教とは、主としてキリスト教において、その教義に背くことをいう。

聖書に罪と明記されていることを罪ではないと否定することは背教である。

② 終わりの時代は、ソドムとゴモラのようにであると書かれている。

2ペテロ2：6～10 無節操な者たちの好色なふるまい、汚れた情欲を燃やし肉に従って歩み、権威を侮る者たち

2ペテロ3：3～4 あざける者ども...自分の欲望に従って生活し、キリストの来臨の約束はどこにあるのか、

2ペテロ3：16 聖書の他の箇所の場合も...それらの手紙を曲解し、自分自身に滅びを招いています。

創世記19：4～5：男たちはどこにいるのか。...彼らをよく知りたいのだ。

- 知るは、性行為の意味で彼らは同性愛行為をしたかった。

ユダ7 また、ソドム、ゴモラ及び周囲の町々も彼らと同じように、好色にふけり、不自然な肉欲（同性愛行為）を追い求めたので、永遠の火の刑罰を受けて、みせしめにされています。

レビ記18：22 あなたは女と寝るように、男と寝てはならない。これは忌みきらうべきことである。

レビ記20：13 男がもし、女と寝るように男と寝るなら、ふたりは忌みきらうべきことをしたのである。彼らは必ず殺されなければならない。その血の責任は彼らにある。

エゼキエル16：50 彼女たち（ソドム）は高ぶって、わたしの前で忌み嫌うべきことをしたので、わたしはこれを見たとき、彼らを取り除いた。

*忌み嫌うべきことは、異邦の民がしている偶像礼拝による同性愛、神殿男娼、偶像に子どもを捧げるなどの罪である。罪とは神様の喜ばれないことであり「悪」である。反対は神様の喜ばれること「善」であり、神の御心を行うことである。神様の忌み嫌うべきことを罪と定義できなければ、忌み嫌うべきことは、一体何を意味することになるのか？

③ 神様は結婚と家族を祝福するために定めた。

創世記1：27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとし彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。

創世記2：24 それゆえ男はその父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである。

創世記9：1 それで、神はノアと、その息子たちを祝福して、彼らに仰せられた。

「生めよ。ふえよ。地に満ちよ。

*神様のかたちに人を創造され、男と女が一つとなり、子どもを産むことができる。

*これが神様の御心で、家族は祝福され、神様の栄光を表すのである。

④ 悪魔の目的は、結婚を破壊し、すべての人を不幸にすることである。

＊神様が性的罪と定義されているのは、夫婦間の虐待、親から子への虐待、ポルノによる心の姦淫、不品行（結婚前の性行為）、不倫/姦淫、同性愛、子どもへの性行為、近親相姦、動物との性行為（レビ記18章、20章）

＊LGBTQ+の「+」には、これらの罪が含まれている。幼児性愛、近親相姦、動物との性行為、そしてそれらが人として異常だと感じる人々が多いので、あえて✚で示して中身を見せない。

「LGBTQ+の権利を認め、差別をなくしましょう」と言い、これらに賛成すると、✚を含む彼らの権利を守る法律に賛成したことになる。これが悪魔側のやり方、すべてをわからなくても差別に反対なら、ここにサインしてと。ただ「差別は良くない」という表面の綺麗事のだけを見て本当の当事者の苦しみも理解せず、中身を知ろうとしないことは、罪である。今の欧米を見れば多くの人々を苦しみと絶望のどん底へ落とそうとするこの活動の先に何があるのかを知ることができる。知らなかったでは済まされない本当に恐ろしいことが現実に行われているのだ。知らなければ、悪魔と戦うことも、助けを神様に祈ることもできない。

＊世界で毎年、800万人の子どもが行方不明になっている。1/3は奴隷として働かされ、1/3は性奴隷として売られ、1/3臓器移植のため、または、悪魔礼拝の生贄として捧げられるために殺されている。彼らは今、13歳以下の子どもと性行為することを合法にしようと働いている。悪魔は神様が大切に思っている子どもを苦しめ殺すことが大好きなのだ！

＊クリスチャンが悪魔の祭りハロウィンに、ただの仮装パーティだから、学校や地区の行事だからと、反対もせず、参加するぐらい悪魔の策略に気がついてないなら、「自分は神様に従っているのか？ 霊的に盲目になっているのか？」と聞いてみてほしい。悪魔は現実に存在し、いつも私たちを攻撃しているのだから。

1 ペテロ5：8～9 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、
ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、
歩き回っています。堅く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。

＊悪魔は聖書を教会をクリスチャンを攻撃している。攻撃されていると感じないなら、あなたはもう騙され、真理を見えなくされているのかもしれない。終わりの時、イエス様が迎えに来られる時に、教会のリーダーたちが背教すると聖書は預言している。リーダーがいうことが果たしてそうか、聖書を開いて確認して、真理に留まってほしい。私たちは、ここに救いがあると世の光として輝き、この世が悪魔の働きによって腐っていく中で、地の塩として腐りを止める働きがある。自分が地上にいる残された時間をそのために使いたいと願う。

ヤコブ4：7 ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。

そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。

3 同性愛者から異性愛者に彼らの性的志向を変えたと主張する200の主題

資料1：200 Subjects Who Claim to Have Changed Their Sexual Orientation from Homosexual to Heterosexual Robert L. Spitzer, M.D. Columbia University ロベルト L・スピッツァー M.D. コロンビア大学 (Robert Leopold Spitzer, 1932.5.22生まれ)

1) DSMにおける立場

スピッツァーは、1980年に発刊されたアメリカ精神学会による『精神障害の診断と統計のマニュアル』第3版 (DSM-III) の特別委員会の委員長であった。スピッツァーは、明確な診断基準と共に各々の精神障害を分類するという、精神障害の近代的な分類の重要な設計者であったが、マニュアルの後の改定版において、彼は誤りと過剰とみなして批判した；しかし、スピッツァーは他の代替物よりもまだ良

いという見解を維持している。2013年、スピッツァーの決定的な自伝、『DSM-III®の製作：診断マニュアルによるアメリカの精神医学の征服』（日本語未訳：The Making of DSM-III®: A Diagnostic Manual's Conquest of American Psychiatry）は、歴史家のハンナ・S.デッカー（Hannah S. Decker）によって出版された。スピッツァーは、透明性を欠いたDSM-5の改定作業を批判していた。彼はまた、精神病性障害（psychotic disorders）における軽度の症状を有する人々に対する精神病リスク症候群（psychosis risk syndrome）の導入の案のような、特定の提案を批判した。

▼ 彼の研究は同性愛者を5年以上している人が、変わりたいと願い、実際に変わることができた人々へのアンケートの結果です。男性143人、女性57人からです。

2) アンケート結果、前半

① あなたが変わるためにもっとも役に立ったのは何ですか？

- 精神的な医療専門職：47%
- 心理学者／臨床心理医／精神分析医：23%
- 牧会カウンセリング：12%
- 精神科医：3%
- 宣教団体（EXGay/ Religious Sport Group） 34%
- その他（信頼のおける相談相手、良き指導者、本、霊的な働きなど） 19%

② サンプルの説明

- 平均年齢 43歳
- 白人 95%
- 大卒 76%
- 現在、異性と結婚している： 男性 76% 女性 47%
- 結婚の前に変わったのは： 20%
- 変わる努力について公表した： 78%
- 信仰 ・ 宗教 プロテスタント： 81% ・ モルモン教 7%
- ・ カトリック： 8% ・ ユダヤ教 3%
- 宗教は非常に、またはとても重要 93%

③ 変わりたい理由

- ゲイのライフスタイルに満足ができない。 81%
- 宗教的な敵対関係 79%
- 結婚を得るか、結婚に留まりたい 男性 67% 女性 35%

④ タイムライン

- 同性的性行為をした 12歳
- 変わろうと努力をし始めた 30歳
- 性的な意識が変わりはじめた 32歳
- 78%の課題のための変わる努力が終わった 35歳

⑤ 思春期に同性に惹かれるのはどれくらいか？ 男性：85% 女性：62%

⑥ 思春期に異性に惹かれることは決してないか、まれな割合は？ 男性：62% 女性：42%

⑦ 止めようと思う前に、何人の人と同性愛的性関係をもったか？

- 全くない 男性 12% 女性 3%
- 1～50人 54% 95%
- 50人以上 34% 2%

⑧ 異性との性関係を全く持ったことがない 男性：53% 女性：33%

⑨ 性志向について 以前：変わろうと決心する12ヶ月前 以降：変わる努力をして 12ヶ月後

1：同性に惹かれる割合：同性に惹かれる100%、異性に惹かれる0%として

以前：男性 90% 女性 85%
以後： 22% 6%

2：以前は、ほとんど同性愛で、以後はほとんど異性愛の割合

以前：男性 42% 女性 46%
以後： 17% 55%

3：同性愛行為への性欲、または空想する割合は、少なくとも月に2~3回ある

以前：男性 99% 女性 88%
以後： 32% 5%

4：同性愛の恋愛感情的な関係を切望する割合は、少なくとも月に2-3回ある

以前：男性 78% 女性 81%
以後： 8% 4%

5：masturbation中に、20%以上は、同性愛のファンタジーを持つ割合は、

以前：男性 94% 女性 92% (男性138人、女性50人での調査)
以後： 46% 18% (男性112人、女性39人での調査)

6：masturbationをする中で、20%以上は異性愛のファンタジーを持つ割合は、

以前：男性 9% 女性 26%
以後：男性 69% 女性 72%

3) アンケート結果、後半

① 以後は、同性愛的指針が無い、またほんの少ししかない割合

以後は無い： 男性 11% 女性 37%
以後はほとんど無い： 29% 63%

*同性愛的指針：惹かれること、淫らな思い、恋愛感情的な関係の切望、masturbationのファンタジー、異性とのセックス中に同性愛とのセックスを思う、ゲイのポルノ、同性愛のふるまい
同性愛の感情に悩まされるなど

② 以前は、同性愛の指針が強かった33人が、良い異性愛に変わった割合

以前は、思春期の異性に惹かれることはない、異性愛の性行為はない、異性愛的ファンタジーのmasturbationをしたことがない、95%以上が同性に惹かれた。

この彼らが良い異性愛に変わった割合： 67%

② 定期的な異性愛セックスをしている56人の3つの以前と以後の変化

	以前	以後
1：感情的に満足する関係：1~10の中で7以上を意味する	25%	98%
2：肉体的セックスの満足度:1~10の中で7以上を意味する	43%	100%
3：セックスの間に、同性愛のことを思う(20%以上)	52%	6%

	男性	女性
④ 著しい、またはほとんどどうつに悩まされている割合	43%	47%
	1%	4%

⑤ 変わるためにとても役にたった助けは

- 自分の男性性や女性性の感情が強くなったこと 87%
- 同性の性的でない関係が、築き上げられること 93%

⑥ これらの報告は偽装か誇張があるのではないかという大きな疑問を持ちますか？

確かに、偽装や誇張があるか、ないかを証明することはできません。しかし、広い範囲での結果報告と極めて小さな範囲での結果報告の合計が変わるという事実は、これらの報告の信憑性を与えま

す。同性愛から異性愛に変化する段階で、異性が強くなるよりも、同性愛でないパターンの感覚が減ってきたことは、それが単純に作られたものではないことを示しています。また、男性と女性で変化の違いがあり、もし偽装の報告なら、女性が男性より多く変化をしているという結果の説明をすることは難しいです。

⑦ 報告された変化の戦術について

- 幼児期または、家族との経験と状況を関連づけている物語
- 性的な感情の変化を生み出すこと、激しい感情的な繋がりがあることを基礎に置く
- 個人的、またはグループのサポート(元同性愛者などからのサポート)
- 思考を止める(そういう誘惑が来ても私はその考えを捨てる、別のルートにする)
- 感覚を誘発する状況を避ける

☆ これらは精神療法として効果的だと一般的に知られている技術で、彼らの主張を裏付けることになる。

- ⑧ 結論：同性愛は大部分が、意欲的な個人によって、変えられることを示していることを認めます。性的志向が変わらないときでも、同性愛の性的アイデンティティの不必要な性行動の葛藤から変化することは可能です。強制的な治療と市民権の否定を正当化します。

4) 結論として（私たちは常識に反して、このように結論づけます。）

* 何人かの意欲的な個人は、いろいろな変化への努力を通して、性的志向の複数の指標の大きな変化をもたらすことができ、良い異性愛的機能を達成することができます。

* 劇的な変化が起きなかった人々も、その変化がとても有益であると思いました。

* 完全な変化はまれです（完全な変化は、普通は精神療法の非現実的なゴールはまれで、特に男性同性愛者において、まれです）

* 彼ら自身が、変わりたいと思いつくようにすることは、困難です。

* 研究を拒絶した性的志向を変えたと主張する多くの人々は、自己認識／アイデンティティを変えたただけだと示しました。また、1 / 3 の人は劇的な変化を経験しますが、それ以外も、少しの変化があったことを経験しました。しかし少しの変化であっても、相当な改善が行動の支配の自己識別されたゴールとアイデンティティの変動を成し遂げました。

* 「性的な新しい方向づけ」を概念化するより良い方法は、それを不必要な同性愛と異性可能性の増加を減らすことが可能だと認めています。

① 研究結果を誤った目的のために使用してはいけない！

* 同性愛傾向が、ほとんどの意欲的な個人を変えられることができると仮定すること。

必ず同性愛者が変わることができると決めつけないこと。

* 性的指向がかなり変わらないときでも、性的アイデンティティと不必要な性行動の変動の一部の葛藤に苦しむ同性愛者がいるという重大さを忘れること。

* 市民権の強制的な処置と否定を正当化すること。

いくつかの主題が、自発的に私に何を語ったかについて思い出し、私の意見は、大部分のゲイが、変わることに関心がないことを認めることは私の問題ではありません。私は彼らが変わる権利があると認めてほしいと願っています。

☆ 同性婚が認められた国では、同性愛は正常なことで、同性愛としてのカウンセリングや心理療法などが禁止されている。当事者が希望しても、同性愛を止めるための治療は受けることができない。これは個人の変わりたいという権利を認めない大きな問題である。性的少数派の中の少数派は、変わりたいと願っているのに、それができないのである。また医師や臨床心理士やカウンセラーも、治療していることが分かれると国家資格が奪われるのである。

4 資料2 牧会信条： Copyright © Post Gay Alliance

愛には恐れがありません。1ヨハネ4：18

真理はあなたがたを自由にします。ヨハネ8：32

現代社会には同性愛に関する異なる見解がありますが、真理は私たちを自由にし、愛には恐れがありません。

1) 香港の200の教会が協力して、LGBTQの方々を助けるために！

*私たちは、どのような場合でも、教会が同性愛者の問題にキリストに対する愛と真理と恵みで応えることを願っています。

*私たちは、教会が同性愛の信者に対する牧会のケアと関心において、不足な点があり、不完全であることを認めます。ここで言う「同性愛の信者」とは、同性に惹かれること(SSA: Same Sex Attraction)により、感情面と性行為の面で、同性愛志向にゆだねている個人のことを言います。私たちは、同性愛のクリスチアンの状況と必要を理解し謙遜に理解することを目指すべきです。そして勉強を続けて、このことについて牧会的奉仕を実践し続けるべきです。

*同性愛の複雑な原因について、道理にかなった科学的な証明は、すべて、又は完全に否定されました。そして、後天的に獲得した要因に重要な影響があるという調査結果が示しました。しかしこの研究もまだ確立されたものでなく、進行中です。

*一部の人々にとって同性愛は、彼らが自ら選んだ志向ではありません。

教会は彼らに対して、より同情的でなければなりません。しかし、同性愛者はこの性的志向にどのように応答するかを決定する責任があります。異性愛者であっても、不適切な性的衝撃が出て来たとき、彼らは自分自身を抑制しなければなりません。(例えば結婚外のセックスやレイプや暴力的なセックスなど) 神さまに従うことを選び、それ以上の行動に走ることを拒否しなければなりません。

*「同性愛者」と「同性愛傾向者」を、教会は区別しなければなりません。同性愛傾向者とは、同性愛行為を必ず行う、または、行いたいと願っているという意味ではなく、同性に惹かれる傾向(SSA)が、ある人のことです。ですから、当然のことながら同性愛傾向者が、神の恵みに頼らないで、性的志向を抑制することをしなければ、性的傾向は自然に深くなり、行いへと進むでしょう。しかし、それは聖書が反対している同性愛者として生まれたと信じるのとは違いがあります

*私たちは、このグループの人々の個人的意志を尊重すべきです。彼らにカウンセリングを強要したり、変わるための成長を求めることを強要はしません。しかし教会は、彼らに愛と真理と恵みの個人的な原則を教え、彼らが神さまの基準に生きることを励ますべきです。彼らがすべての方面から成長し、聖い生活を保つためです。スポンサー：(アルファベット順で更なるタイトルを挙げません)

Chen Qian Kai Chen Guoping Chen Yihua Wu Yonghua Zhu Zhiming Feng Zhaocheng He Zhidi
He Baosheng Kang Guihua Guan Kewen Guan Haoran Kwong Bingzhao Lin Yining Lin Weicheng
Liu Zhixiong Liu Dafang Liang Jialin Liang Guoying Liang Ziyin Su Zongzhi Tang Rongmin Tan
Zishun Huang Ruijun Yu Daxin Yao Jianwei Yang Jianqiang Yang Tianen Yang Yongchen

2) 牧会信条

この牧会信条は、聖書の原則、および牧会の経験に基づいて、制定されたもので、教会の道しるべとして参考になることを願っています。

① 私たちは、神さまが、ご自身のかたちに男と女を造られたと信じています。

創1：26-27：性の自己同一性は、神さまが秩序とみこころで男性と女性を造られたと私たちは信じており、男性と女性の性的関係は、結婚の中でのみ、神さまに喜ばれ、祝福される関係だと私たちは信じています。

- ② 私たちは、イエス・キリストが、人の性的志向に関係なく、この世界に住むすべての人々を愛しておられると信じています。私たちは、罪深く、弱く悔い改めと救いと新生が必要であることを認めます。この世界が性的志向に関係なく、キリストにのみ、救いと新しいいのちを見つけることができることを信じます。
- ③ 私たちは、クリスチャンが聖霊の内住のいのちを持っていながらも、戦いがあることを信じます。聖化する過程で、クリスチャンは誰でも、様々な試練に直面しますが、神さまの恵みによって、聖なる生活を送る責任があります。私たちは、教会生活において、ただ「同性に引かれること(SSA)」を理由にして、人を拒んではいけません。
- ④ 私たちは、教会が「同性に引かれること(SSA)」で戦っているクリスチャンに、忍耐強く、柔和な心で牧会をすることを勧めます。教会は、離れず、見捨てず、深く関わり、彼らの必要と戦いを理解し、彼らが神さまの愛と真理の中を歩むことを励まします。
- ⑤ 私たちは、教会が、同性愛傾向者（同性に惹かれる人々）を尊重するふんいきと安全な環境を作り、彼らが神さまの心の生活をできるように勧めます。私たちは、教会が、兄弟姉妹に、同性に惹かれることと戦っている人々を受け入れ、彼らと共に歩み、愛の中で共に信仰を求め、支え合い、励まし合い、成長し、みこころにかなった生活を立ち上げることができるように励まします。
- ⑥ 私たちは、クリスチャンが引き続き、「同性愛的性行為」を選び、また聖なる生活を拒否するなら、彼らが真理の内を歩んでいないと信じます。教会は、霊的権威に従い、彼らを愛の中で取り戻し、彼らが愛の中で成長するようにします。
- ⑦ 私たちは、より多くの教会と宣教団体が、愛と真理の中で、同性に惹かれるクリスチャンを受け入れ、喜ぶことができることを願っています。彼らは、自分の置かれている状態と信仰が、対立していると感じ、助けを求めています。これまでも多くの例でみられたように教会の適切な牧会は彼らにいのちの成長と全人格的変化の体験をしてもらう助けをすることができます。
- ⑧ 私たちは、教会が同性愛傾向者（同性に惹かれる人々）にも福音が必要であることに関心を持つことを期待しています。彼らはみな、神さまに愛され、福音を知らない人々です。求道中で聖書の真理について、よく知らない同性愛傾向者（同性に惹かれる人々）を教会は排除するのではなく、彼らに愛をもって接し、福音を知らせ、彼らが愛の内に、神さまの力を経験することを忍耐強く待ち続けるようにしたいものです。

4 資料3：性同一性障がいの手術反対意見

- ① 名無しのこじまさん：2017/08/16(水) 04:30:29.02 ID:AFgmgfll0.net

性別適合手術後の自殺率は高く、手術後3年以内に70%以上の者が自殺するといわれています。とくに事前の精神科のカウンセリングをせずに手術を受けた者の自殺率は高いとされています。現在の医学では性別を完全に「転換」することは不可能です。性別適合手術はあくまでも、外性器を除去するという整形手術にすぎません。生殖能力が永久に失われる、とりかえしのつかない不可逆的な手術です。男性が「性別適合手術」を受けても女性にはなれません。「性器を切断された男性」でしかありません。

- ② 手術を後悔しています。@bluebluetalker

多くの「患者」はいったんホルモン投与をはじめたら途中で、後戻りできないと思い込んでいますが、これは事実ではありません。ホルモン剤は有害な化学薬品にすぎません。男性が性別適合手術（性転換手術）を受けた場合、睪丸がなくなり、ホルモンバランスが崩れるために非常に精神的に不安定になるケースが多いです。このため仕事を失い、生活に困窮するということが多いです。睪丸はそれくらい大切なものなのです。手術後に自殺する人も非常に多いです。ネット上には性同一

性障害の情報があふれかえっていますが、これを信じてはなりません。性別適合手術後に、本当は別の精神障害であったことが判明、後悔するという事件が何件も起きています。僕は数年前に女性になるための性別適合手術（性器を切り落とす）を受けました。でも今ではもとの男性にもどって生活しています。性は転換しません。

③ GID神話の崩壊～世界情勢 @GID26718788

オスロ大学では、GIDと診断された52人について視覚化能力、言語化能力、認知力などを調べました。その結果、全員が本人の主張する性ではなく、生まれながらの性に一致していたことがわかりました。米国で500人以上のGIDの患者の治療にあたった、精神科医のチャールズ・イーレンフェルトは次のように述べています。「性を変えたい人の80%は考え直すべきだ。SRS（性別適合手術）を受けてから悩む患者が多すぎる。自殺者も多い」

④ 性別を変更後「やはり元に戻したい」 朝日新聞デジタル 2017.10.30

茅ヶ崎市の40代元男性は自分は性同一性障害だと考えて2003年にタイで男性器切除の手術を受けた。戸籍上の性別を2006年7月変えたが、やはり適合できず元に戻したくなった。性別変更をする人が増えるにつれ、こんな悩みを抱える人が出てきた。再変更は現在の法律では想定されておらず、ハードルは高い。専門家からは「何らかの救済策が必要」との声も出ている。

5 LGBTをやめた人々の証し

1) サバン・ゴンザレス：マーク・ステーブンの証し(フィリピン)

崩壊した家庭で成長していくという事は私にとって容易ではありませんでした。私は通常母と二人の叔父と一緒にいましたが、彼らは皆私を肉体的に虐待し、叔父の一人は私が幼い頃に性的に虐待し、私は純潔を失いました。生みの父親なしに育ち、クリスチャンの祖母によって育てられました、なぜなら母も常に私の側にいなかったからです。しかし私が一番苦しんでいたのは自分のアイデンティティーでした。自分は男なのか、女なのか。7歳のころ、私は女の子のおもちゃで遊ぶようになり、ドレスを着るようになりました。自分ひとりのときに、祖母の靴を履き、毛布をドレスのように使い、タオルで頭をくるみ、自分の髪が長いふりをしました。学校ではあるクラスメイトに思いを募らせたことが、彼は男の子でした。この時始めて私は自分がゲイであることに気が付きました。大学でも同じような感情があり、私は自分の性的関心をオープンにしていき、ゲイのコミュニティに完全に入っていました。17歳の時に自分のホームタウン出身の、性転換した女性に出会いました。二週間後私は仕事を辞め、この友人と都会で新しい人生を始めました。

女性の服装をし、髪を伸ばしました。女性になるという夢が今現実になっていると思いました。生活を支える為に私はエンターティナーとして、また同時に売春婦としてクラブで働いていました。他の性転換をした女性たちと共に、他の国々へ、プロの売春婦として働きにさえ行きました。この方法でしか自分の暮らしを支える術がありませんでした。なぜなら私は性転換した者として差別を受けていたからです。私はさらに女性的になることに憑りつかれていき、ホルモン注射をし、手術を受けました。また美しくなる為に厳しいダイエットもしました。フィリピンでの美を競うコンテストにも参加し、最も大きなコンテストで優勝し、その時サバン・ゴンザレスという名前が誕生し、LGBTのコミュニティで非常に知られるようになりました。自分の成功にもかかわらず、私は満たされていませんでした。インターネットでのトランスジェンダーの出会い系に登録し、ついに私と結婚する男性を見つけました。私達はアメリカへ移りましたが、数年後離婚しました。LAへ引っ越し、再度LGBTのコミュニティに関わり、トランスジェンダーのモデルとして成功しました。アメリカのテレビ番組LOW & ORDERでトランスジェンダーの女性のモデルが殺害されるという役を演じました。再度お付き合いしていた人との別れの痛みが、私を神への祈りへと近づけました。「なぜ、こんなことが私の人生に起こるのですか？なぜ私なんですか？」。私は泣き、考え始めました。「私のこの世での目的は何なのだろうか？自分

のアイデンティティーを探し求めましたが、見つけることはできませんでした。その頃、別の男性で、彼と一緒に住むように私を誘ってくれる男性と出会いました。

彼の家に向かってへ運転している間、周りの自然を見て私はとても平安を感じました。高い山々、美しい木々、静かな近所、すべてが完璧でした。彼は優しく、安定しており、成功者でしたから、お金の心配をする必要もありませんでした。美しい家に住み、毎週こずかいをもらい、おいしい物を食べ、まるで夢の中を生きているようでした。私は私を育ててくれたクリスチャンである祖母から得た習慣で、毎朝クリスチャンソングを聴き、賛美をし、デボーションの本を読み、祈りました。しばらくして私はすべてを持っているにも関わらず、私の人生には何かが欠けていると気がつきました。自分の人生は誰によっても何によっても満たされない何かが必要だと感じました。コンピューターを開き、YouTubeで説教を検索すると、第一コリント6：9-10についてのOCCFという教会のボンサキ牧師のメッセージへと導かれました。

1 コリント6：9-10 それとも、正しくない者が神の国をつぐことはないのを、知らないのか。

まちがってはいけない。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしる者、略奪する者は、いずれも神の国をつぐことはないのである。

神が牧師のメッセージを通して直接私に語っていると感じ、圧倒されました。私は自分の聖書を買うことを決断し、神のことばを読んでいる間に、神が私の心をいさめ、真実をもって私の思いに光を照らすのを感じました。聖霊が私に語るのを感じ、自分が泣いていることに気が付きました。私が犯してきたすべての罪を告白し、悔い改め、主に赦しを乞い、イエス・キリストを私の救い主、主として受け入れました。私の主からの罪悪感と信仰を、一緒に住んでいるパートナーに話しながら、私たちの性的関係を終わらせる必要があると彼に伝えました。なぜならそれは神の目には忌み嫌われることだったからです。私がここを去った後、友人でいましょうと伝えました。神の恵みによって彼は私の決断を理解し、尊重してくれ、今では彼は私のことを養子に迎えた息子のように接してくれます。

私は神に私が参加できる教会を与えてくださるように祈り、神の導きにより、神は私が差別されることを感じないCCFLAをお与えくださいました。少しずつ、私は良い人生の道を見つけていきました。神と親しくなり、さらに多くの時間を神と過ごしました。聖書、夢、幻、状況、また私を神の道へ導くように神がお用いになっている人々を通して、神は私に語り続けてくださいました。私はゲイ（トランスジェンダー）であることを癒す唯一の方法は、男らしくなり、筋肉質の体を持ち、タフな男になることだと思っていました。しかしそれは間違っていました。イエス・キリストを通しての聖さがその答えです。本物の男になるということは、ただの人間にすぎません。しかしキリストに従う者となることは、自分のいのちを犠牲にしてくださったイエスさまの光を輝かすことです。イエスさまが私たちを罪から救われるために十字架の上で死なれたこの福音を人々に伝えることです。

主の助けにより、私は自分の生き方を変えました。髪を切り、男物の服を着はじめました。それは私にとって自分ひとりでするには容易なことではありませんでしたが、主の慰めと導きにより、それをなすことができるということを知っています。最近、私はフェイスブックに自分の新しい写真を投稿しました。そしてそれはSNSを通して世界中に急速に広がりました。多くの文章はすでに削除されました。または私の変化を伝えるニュースのカバーにもなりました。これは私の力でできたことではありません。それは私の人生に対する神の意思によって、主が私を変えられたのです。

なぜなら、2 コリント5：17には、だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである、と書いてあるからです。私は私の平安をイエスの中に見つけました。聖書を通して、イエス・キリストを通して、今、父なる神と共に生きることができるのは、私の人生を神の意思と導きにより、また聖霊に頼ることによって、神の命令に従う強さをも与えてもらいながら歩んでいます。私は神の福音を私の家族、友人、またLGBTのコミュニ

ティに伝えています。シングルグループに参加し、最近ネットでLGBTのグループをフィリピンで立ち上げました。私たちは証しをして、神様がどのように私たちの人生を変えてくださったかを分かち合い、互いに弟子を育てます。LGBTの意味はもうレズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーではなくなりました。神は新しい意味を与えてくださいました。私たちはそれをLJBT(LOVE JESUS BELIAVE TO BE TRANSFORM),と呼びます。イエスを愛し、変えられることを信じる、という意味です。今晚、私は、男性に戻ることを完成させるため、家族との回復のため、また主に残りの人生を主に仕えるためにフィリピンに戻ります。これは私のイエスと共に歩む新しい人生の始まりにすぎません。サバン・ゴンザレスは過去のものとなりました。新しいマーク・ステイブンが生まれ変わり、聖霊によってやってきました。詩編139編は言います。あなたは神の子であり、あなたはすばらしく造られました、神の目にはあなたは高価です。神はあなたを造られる前から、あなたを知っておられました。あなたのような者はどこにもいません。私はマーク・ステイブン、神の憐みと恵により、赦され、救われました。すべての栄光を神にお返しします。

2) シルビア・クア牧師 (マレーシア)

Sexual abuse and how it damaged God's creation from a female post-gay perspective.

性的虐待とそれがどのように女性のポストゲイの視点から神の創造を傷つけたか

私は伝統的な中国の家族で生まれ、彼らはクリスチャンではありません。私は両親が家族を愛していることを知っていました。私が若い時、私は性的虐待の被害者にあい、このトラウマは私に男性のイメージを歪ませました。子どもがこの虐待に遭遇した後に援助を受けなかった場合、子どもの生活に深刻な影響を与えることがあります。それは私が男性に対する思考を歪ませました。最初の歪んだ考え方は、「世界のすべての人は、残酷で悪い意図を持っている。」第二は、「すべての男性は女性を保護しない。」第三は、「彼らは女性を世話する方法と愛する方法を知らない。彼らはただ自身の欲望を満たしたいだけ」というものです。

私はこれらのすべての歪んだ思考を持っているので、私は男性を避けるようになりました。それで自動的に女性と一緒にいて、安全を感じました。私の心は、女性が私を傷つけたり、攻撃したりしないと考えました。10代の頃、私は小説や漫画を読んでいました。私が読んだいくつかの新しい信念システムを私の中に植え付けられました。例えば、「愛する性別を区別する必要はありません」この新しい信念は、私にはとても良く、これを真実として受け入れ、追求できました。私はまたこの関係はずっと続くことができ、それは罪ではないと信じていました。また、この同性関係に関する別の信念は、私は「それを隠す必要はないし、それより全世界に知らせる必要がある」ということです。代わりに、私は誰でも愛する権利があり、誰も私を止める権利を持っていないと考えました。

性的虐待による別の被害は、女性としての私の尊厳を剥奪されたと感じていることです。- 私は価値がない- 私は非常に汚い- 私は醜い- 私は権利がない- 私は声を出せない-と感じていました。これらのすべてのために、私は不公平なものに対してとても怒ります。例えば：ある日、私は友人とタクシーを待っていました。タクシーが止まり私はドアを開けました。そこへ突然、男が現れてタクシーに乗り込みました。私はこの男の不公平を怒って、その男をタクシーから引き摺り出しました。この事件は私のトラウマが、いかなる不公正なものに対しても、怒りが爆発することを教えてくれます。正直なところ私は不当なことへの怒りは、止められない状況で、危険を認識できていませんでした。私は10年間の同性関係を持っていました。それで私は自分の人生の残りを彼女と一緒に過ごしたいと決めていました。

私は家族全員に知らせることにしました。家族は私の言葉に、ショックを受けて黙っていました。父は私と話そうとせず、母は泣いていました。彼らは私がレズビアンであることを受け入れることができないという問題を抱えました。私は家族に私を受け入れるように強制し、同性パートナーを家に連れて行きました。家族全員がどうしていいかわからず、バタバタしていましたが、両親はレズビアンを受け入れることはできないが、私もパートナーも追い出すこともしないで、この家はいつも私のためにある

と言いました。これは私にとっては悪いニュースでした。私はその後、私がレズビアンであることを認めてもらえなかったので、パートナーと家を離れて逃げることに決めました。両親はどこに行ったのか知りませんでした。

私はパートナーと新しい町に行きましたが、両方とも仕事が必要で探しました。それから私は面接を受け「レズビアンである私を雇ってください」と話しました。するとほとんどの会社は断られました。そしてある時、新しいオフィスでの面接に行きました。ボスは私がレズビアンであるにも関わらず、私を雇ってくれました。私を「エイリアン」のように見ている人もいましたが、この会社に雇われたとき、私は彼らが「エイリアン」であると感じました。彼らは私を雇うことで問題が出るかもしれないと恐れませんでした。私はこのオフィスで働き始めたとき、世界に「クリスチャン」と呼ばれる人々がいることを発見しました。同僚は私を差別せず、私に愛を示しました。彼らはいつもどれくらい私を愛しているか、そしてキリストが私をどれほど愛しているかを教えていました。私は彼らが狂っていると思いました。私を差別せずに扱ったので、私はこのオフィスは非常に安全だと感じました。私は2つのグループに属しました。一つのグループはクリスチャンであり、もう一つはレズビアンです。私のレズビアンの友だちは、パーティーやクラブ活動など、あらゆる種類の集まりにいつも私を招待しました。しかし、クリスチャンの友だちは、彼らと一緒に祈るように私を招きました。彼らはいつも私を愛していることを分かち合い、私の家族と和解するように勧めました。それで最後には、私は家族と和解しました。

数年後、パートナーと私は別れました。彼女が私の人生だったので、私は気力を失い、食べることも仕事も寝ることもできなくなり、うつ病になりました。私の同僚たちは私の人生が壊れていくのを見て、私のために祈ってくれました。この祈りの中で、私は神の超自然的な奇跡を体験しました。彼らが祈っていたとき、私の壊れ砕かれた心のところに手のひらが入ってきて、それらの壊れた心を拾い始めました。その手は新しい心を造りました。壊れた心が新しい心になり、私は神の癒しを経験しました。私はこの新しい心を持ち、この神が宇宙の創造主であることを知りました。この創造主は傷ついた人を強力に癒すことができます。私はこの創造主を恐れしました。医者には物理的な癒しのための人の薬を与えることができますが、この創造主は人の魂を癒すことができます。

この癒しの後でも私はキリストを受け入れませんでした。なぜなら私はまだ暗闇の中で生きていたのですが、私のクリスチャンの友人たちは私をあきらめませんでした。数年後、私はこの創造主を私の主と救い主として受け入れました。彼らは私に聖書を読むよう勧めました。私が創世記を読んだとき、それは私には拷問でした。神は創世記で、人の創造を含め、創造物はすべて良いと言いました。私はこの事実を受け入れることができませんでした。あなたの創造物が良ければ、あなたの創造物である男性が、なぜ私を傷つけたのでしょうか？ と私は神に質問しました。私の友人は聖書全体を読むのを続けるように私を応援しました。私が聖書を読むことを続けていくうちに、聖霊は私の心をリフレッシュし始めました。私の過去の性的虐待の被害者であるという私の過去の遭遇は、何年も後に主によって明らかにされました。この記憶は20年以上も記憶から消されていました。神がこの痛みを明らかにされたとき、もはや逃げることはできず、向き合う必要がありました。そして神は私のこの痛みを穏やかに癒されました。この創造主は、この苦しい旅の中で私をサポートし、励ますために多くの人々を送ってくださいました。最も重要なのは、一番の痛みに向き合うことによって、この回復への旅を歩く力と勇気をたくさんいただいたことでした。この旅の間、神は私の信念を新しくされました。

- 1 何年も後に私は創世記を読んで、彼の創造が良かったことを読んだとき、私は神の創造が特に良かったと体験できるように、神が私の心が新しくされたことを実感しました。私はもはやこの聖書の中で神の真理と矛盾しません。
- 2 神は女性として私の尊厳を償いました。私は女性としての価値を持ちました。
- 3 私は自分を美しいと思いました。

私は教会員が私が美しいと言いました。古い自分はこの褒め言葉を聞いて恥ずかしがりますが、

その日、私はそれを本当に受け入れて表現することができました。私は神の最高傑作であり、私は神によって美しく造られています。

4 同性愛行為は罪であり、神はそれを良しとされません。

それはこれが罪であるという聖霊の確信。この旅はそれほど滑らかではありませんでした。私はこの創造主からの多くの真実と恵み、そして時間が必要でした。神は私を囲むようにして、私をあきらめず、多くの天使を送ってくださいました。大切なことは、神は私を捨てませんでした。

神の愛が私の心を溶かす。私は神の美しい創造物です。私はもはや性的虐待の被害者ではなく、神の真実が私を自由にしたので勝利者です。

3) 同性愛に苦しんだ「小さな男の子」のいのちが変えられた物語（香港）

小さい頃、僕は母と父親が違う3人の姉と暮らしていました。父は別の家に住んでおり、家族で父の話題が出ることもありませんでした。あるとき、僕は姉に「どうして僕にはお父さんがいないの？」と聞いたことがあります。姉の答えはこうでした。「私たちにお父さんはいないの。お父さんは死んだと思いなさい」と。そして母もいつも「父は私たちに何もしてくれていない。父親の責任を果たしていない」と言うばかりでした。それから中学生になるまで、僕は実の父親が誰なのか知りませんでした。中学生になって、母は初めて僕を父のもとへ連れて行きました。地下鉄の駅であった父は「母との関係を切れ！」と僕に言い放ちました。それから僕と父の関係はますます離れていくようになり、ときには一年に一回すら父と会わないこともありました。

これらの出来事があり、僕は口を固く閉ざすようになりました。僕の性格は非常に内向的で、卑屈なものになっていきました。僕は自分自身を何度も責めました。長い間、毎晩のように寝るときには「ごめんなさい、ごめんなさい」と何度も寝言をつぶやきました。普段の生活でも人と話そうとはせず、いつも人の目ばかりを気にし、些細なことでもすぐに緊張するようになりました。そして孤独になることは、僕の最大の悪夢でした。こうして僕は大人の男性と交わったこともなく、家では父への不満ばかりを聞いていたこともあって、思春期に入る頃には、僕はどのように「男性」になればいいのか、どのように同性のクラスメイトと交わればいいのか分からなくなり、うまく輪に入ることができなくなりました。僕にとって「男性」になることはとても難しく、辛く苦しいものに思えました。僕は自分自身にこう言い聞かせるようになりました。「もしかすると、僕は100%の男性である必要もないのかもしれない」と。また一方で、僕は女性と触れ合うことも恐れていました。僕にとって「女性」とは非常に気が強く、ときに僕を傷つけるように感じられたからです。女性が僕の身体に触れることは、ゴキブリの大群が僕の身体にまとわりつくのと同じように受け入れがたいものでした。

そして、中学のころから、僕は、自分の人生を少しずつコントロールできなくなっていきました。僕はインターネット上で同性愛の画像やビデオを探し、マスターベーションと性的な妄想の中におぼれていきました。僕は何人かの男子学生に夢中になりましたが、そんな自分が正常ではないとも感じていました。まるで自分が自分でなくなったかのようなようでした。自分でもこんなことをするのは嫌なのに、止められないからです。人生は苦しく無意味で、自殺したいと、ずっと思っていました。中学三年生の頃はほとんど毎日、家に帰るとベッドにうつ伏せになり、泣いていました。しかし、僕が小さい頃から、姉は僕に福音を語ってくれました。祈りが答えられるという経験をしたこともありました。そのため、僕は神様は真実であること、しかも僕を他の人とは違う存在として見てくださっていることを知っていました。僕は自分が同性愛者であることを自覚しながら、同時にイエスさまに従っていく決心をしたのです。そうして、僕は伝統的な教会の中で主に仕えるようになり、7年間、僕は神様と同性愛の二股の生活を送りました。教会ではクリスチャンですが、教会の外では苦しんでいる罪人でした。やがて高校生になったとき、僕はついに牧師の前で自分の性的指向を告白しました。牧師は僕を大切に思ってくれていましたが、僕が立ち向かっている困難に対しては力がありませんでした。牧師は僕に対して、あなたの父親に代わることはできないと伝え、心理カウンセラーを探すようアドバイスしました。そして兄弟

姉妹が動揺することを恐れて、僕が同性愛者であることは伝えないようにとお願いしてきました。僕は更なる拒絶、見放しを受けたと感じ、数年後にその教会を離れてしまいました。

それでも神様は僕を見捨ててはいませんでした。僕は高校の時、ニュークリエーションソサィティによって、作られた同性に惹かれる問題をもった人々のためのスモールグループに参加しました。人生の中で、初めて、孤独を感じることがないと思いました。僕はこのグループの中で健康的な友だち関係を築くことができました。僕は自分の現実の葛藤と内側の痛みとを分かち合った後で、彼らに受け入れられました。そして僕は同性に惹かれる問題と一緒にどのように生きるかを学びました。同性に惹かれる思いを持った人として、彼らの困難を聞くことによって、同性愛の生き方は僕の人生に本当の満足を与えないと気づいてきました。また、僕はカウンセリングの機関「ポストゲイアライアンス」の中で、ある宣教師（ジェンダーミッショナリー）と出会いました。彼女は僕のためによく祈り、多くの集会に僕を参加させて、僕にどのように神様に従っていくべきかを教えてくれました。彼女は僕に霊的な癒しがあるよう、また神様が僕の心の傷を治してくださるように、特に励ましてくれました。彼女が僕に告白の祈りを導いてくれたときに、僕は同性愛、マスタベーション、ポルノを見ること、不正行為、偽善、自己中心な思いなどの罪と認めました。そして僕はそれらの罪を犯して得た喜び、親密さと満足を放棄しました。僕はリラックスしたと感じ、僕の思考もはっきりしました。そして祈ることが簡単にできるようになりました。僕の罪悪感と敗北の気持ちは、神様との親密な関係に置き換えられました。僕は神様の臨在を自由に楽しむことができました。神様が僕の人生の呪いを取り除き、それを神様の豊かな祝福にかえてくださったので、僕は聖く、良いものになりました。

ジェンダー宣教師は、僕を611教会に連れていってくれました。この教会の毎週日曜の礼拝では、必ず誰かが証しをします。兄弟姉妹たちが壇上で勇敢にも自分の汚れた過去と、イエスさまによって人生がいかに変えられたかを話すのを見て、自分も彼らと同じように神様によって変わることができるのだという希望を持つことができました。僕は教会で、神様は僕を下僕ではなく、神の子どもとして見ておられるということ、そして僕に父と母を敬うよう励ましているということを学びました。ある夜、僕と母が二人で話をしていたときに、なぜ父と別れる選択したのかを僕に語ってくれました。そこで実は僕たちの家庭は母の忍耐によって引き裂かれずにいるのだと知りました。母は僕たちを自分よりも大切に思ってくれていました。僕は母にキスをし、彼女を抱きしめ、道を歩くときは手をつなぐようになりました。すると、僕が前に持っていた、女性に対する馬鹿げた恐怖は消え、かえって優しく忍耐のある女性を尊敬できるようになったのです。また教会の小グループの中で僕はケアと癒しを受けました。僕のグループのリーダーは夫婦で、僕にとっては最高のリーダーです。夫は父親の心をもって聖書の真理に基づいて、僕をケアしてくれました。グループで学ぶ以外にも、彼は僕をゲストとして家にも招待してくれました。彼は僕のために料理を作り、フィットネスや個人投資についても教えてくれました。最も印象に残っているのは、彼がグループのメンバーを連れて休暇旅行に行ったことです。僕たちは数日間一緒に生活しました。彼は僕を息子と呼び、自分を父だと呼びなさいと言ってくれました。僕が彼に「お父さん」と呼びかけた回数は、本当の父親に言ったよりも多かったです。

僕は本当に愛された経験を通して満足を感じたことに気付かされました。あるとき、僕は家族に黙って父に会いにいったことがあります。しかし、そのとき父は何か急用があったようで、非常に冷たい態度をされ、少し話をしてすぐに去ってしまいました。僕は父に対して何も期待していないのだから、このような冷たい態度に受けたとしても何も感じないだろうと考えていました。しかし僕は家に帰る途中で、耐え切れず涙を流してしまいました。そこで気付いたのは、僕は本当は心の奥底で父の愛を必要としていたことです。僕と父の関係は疎遠であり、姉たちも父の愛を諦めるように言いました。でも僕はあのグループリーダーのように、父が僕を愛してくれることを期待していたのです。グループで出会った「父」と同じように。僕はこれまで自分に父が必要なことを認めていませんでした。しかし、本当は父を求めている心が僕を男性に惹きつけ、男性の愛を得たいと望ませたのです。僕が同性愛の中で求めていた愛は、本当に真実の愛ではなく、ただ父の愛を求めていた姿が、現れていたに過ぎませんで

した。神様は僕が真実を見出すように導かれました。僕はついに、父親の存在は僕の心の中で大切な場所を占めていることを認めました。たしかに、僕と肉親の父の関係は今でも疎遠です。しかし、僕は教会のグループで出会った

「父」や兄弟姉妹の愛を感じるにつれ、自分がもう同性愛に惹かれていないことに気がつきました。さらに、TVドラマで同性愛の描写のあるシーンが映し出されると「おかしい」と感じるようになり、以前とは全く異なる自分になりました。そして、神様はただ僕をいやしただけでなく、僕の心を愛で満たしてくださいました。いま僕はあの不完全な父を受け入れることができ、彼を尊敬し、彼のために祈ることができるようになっていきます。

神様は僕の人生をさらに用いてくださっています。いま僕は福音系の依存症治療施設の男性寮で奉仕をしています。さらに、僕はかつて中学時代に慕っていた女性と再び出会い、交際を始めて1年余りになりました。彼女の性格は柔和で強く、多くの素晴らしいものを兼ね備えています。僕たちは共に居られることを喜んでいきます。僕たちの関係がますます親密になり、将来、結婚へと関係を進められることを願っています。僕の救い主である神様に感謝します。神様は見放され、恐怖と抑圧と同性愛の嘘から僕を救い出してくださいました。神様に最も大きな栄光がありますように、アーメン。

Postgay Alliance の証より

4) トリフィーナ・ロウ牧師 (マレーシア)

私の両親は、結婚する前に私をみごもり、息子を期待していたが、私は女の子でした。だから、私が生まれたとき、両親には暗黙の失望がありました。典型的なアジアの家族であるため、最初の生まれの者は強くなる必要があります。両親は私の行動が、兄弟たちにとって良いロールモデルであることを期待していました。私の両親は創造主を知りませんでした。私の父のギャンブル依存は、母との関係において問題を引き起こしました。ギャンブル依存は父に破産をもたらし、私の母は苦しみ、結婚生活の転換点になりました。母は裏切られ、もう父を信頼できなくなりました。それで私は母の「代理夫」になり、母の苦情の吐口になりました。私は幼い時から、結婚の美しさを見ることができませんでした。私が約6歳の時、私は近くの女友だちと遊んでいました。私は性的なことには全く無防備でした。その日、その友だちは私にキスして、性器に触れました。私は何が起きているのか分からず混乱しましたが、その日、彼女が私を愛しているので、このタッチがあったという考えを作り出し、私はこの方程式を持ちました。「触れることは、愛していること、愛することは、触れることと同じです」。私は早い性的覚醒をして、私の体には境界がありませんでした。私は触れられることが、愛する意味だと理解するには若すぎました。

私は母親を守り、母をサポートする必要があるもので、肉体的に強く育ちました。私は母の人生で男としての役割を引き継ぎました。しかし、純粋な性的な親密さが何であるかという私の全体的なイメージを破壊したのは十代始めの時でした。私はポルノにさらされました。私がこのポルノの中毒に夢中になり、最初の性的経験が女友だちとの関係だったので、私は女性の体を求め始めました。私と母との不健全な愛着関係は、女性からの愛を受けたいという思いを強めました。私は私の心を埋めるためにマスターベーションの習慣を持ち、レスビアンとの関係に発展しました。当初は感情的に依存していましたが、後には性欲を求め始め、レスビアンの友だちに触れることを切望しました。これらのすべては私のために一時的な喜びをもたらしたので、秘密に行われました。

私が13歳の時に私はキリストを受け入れましたが、それはただの頭の知識でした。私は自分のイメージだけで、私を造られた創造主を知りませんでした。私は神様を外部的な行いで満足させようとしていますが、心の中は神様の喜ばれない人生を生きようとしていた。私は神様と罪の二重の生活を続けていました。私は学校の教師になる学びをして、大学卒業後は、農村部で教えるために派遣されました。そこで私は孤独を何度も経験し、ポルノやマスターベーションに溺れて自分自身を慰めようとしていました。私はそこで友情を築き始めましたが、それは私の同性愛を求めるための特別な友情でした。そして彼女から

同性関係を始める許可を得ました。彼女も性的欲望を求めていたので、私たちはもっと親密になり、私は彼女なしでは生きられないとう、彼女とのセックス依存になりました。これらの同性関係のうちのいくつかは長続きしないものの、ある友人とは、彼女との友情を尊重するのではなく、私は加害者になり、彼女に同性愛行為をしました。私は彼女が私の性的欲望を満たすために用いましたが、捨てました。私はまた別の女性を愛し、彼女に心を捧げることにしました。しかし2年後に彼女は男性を愛し、去っていきました。それは私の人生で男性のイメージは悪かったのですが、このことにより、私は男性への憎しみを強め、自分が男ではないことで自分を嫌いました。私は女性として生まれた創造主の計画を否定しました。そして、私は男性とセックスをして彼らを破壊しようとしてしましたが、代わりに自分自身が破壊されました。私の性的罪は私をセックス中毒者に変えました。私は愛されたいという最も深い必要を満たすためにセックスが必要でした。

この時、私はすでに牧師として専任の職務に就いて、私は二重の生活を続けていました。しかし、彼女に投げ捨てられた私の悲しみは、私が地獄に行くことより大きなものを感じました。私は神に向き合うことを恥ずかしく思い、創造主を見ることができず、自殺しようとしてしました。しかし創造主は不思議な方法で私を止めました。そして神様は天使たちを送り、私と一緒に歩くようにされました。その日、私は牧師職もすべてを捨てて、シンガポールに行き、助けを求めました。マレーシアには私をサポートする団体がなかったからです。

神様は私を贖い、私の尊厳を私に戻しました。創世記1:27の神様の創造について、もう一度学ばなければなりませんでした。私の心が蘇りました。確かに、神様が私を女性として造り、神様のイメージで私が創造されたのは間違いではありませんでした。神様は私に健康な同性の友人を持つことができることを知る二度目のチャンスを与えました。神様はまた、セックスは結婚の夫と妻のための神の創造であり、結婚しているカップルのための神様の贈り物を私が壊すべきではないと私の心に刻まれました。私は主が私を自由にして、私の壊れたイメージを回復させるために、多くの健康なカップルを送ってくれました。そして、神様は私がかつて行っていたような経験している人たちを助け、一緒に旅をするために、私を彼らの牧師に任命されました。感謝します。私は性的弱点を恥ずかしく思っていますが、創造主が私に行われたことは恥ずかしいことではありません。

5) マイライフは 男、女、そして...男再び レスリー・ルング (シンガポール)

私の人生でずっと続いていたものがあつたとするならば、それは鬱です。いつも鏡に映る私の姿を見ると気がふさいでみじめな気分になりました。それは、内側の"本当の私"を見ることができなかったからです。私は物心ついた頃から、いつも自分は女の子だと感じていました。この私の感覚が、少女的な振る舞いや女性的なものを好むことでも明らかでした。子どもの時の私の特徴は、やさしく女の子のように可愛らしく、これは時が過ぎれば消えるものであると信じられていました。この少女のような性質から、私は男の子と仲良くすることも、一緒にいることもできませんでした。私はどんなに彼らの乱暴で荒々しい遊びを嫌ったことでしょう。私は女の子と一緒にいることが心地よく、同じように好き嫌いを分かち合える彼女たちとは、同じだと感じていました。思春期になると、私は自分が男性の枠の中に入れられることに対して、すごいストレスを感じるようになりました。私は恐れ、混乱し、イライラしました。私は自分に何が起きているのか理解できませんでした。私は深い鬱の中で、神さまだけが私のただ一つの慰めでした。私はクリスチャン家庭で育ち、子どもの頃から神さまについて教えられ、知っていました。神さまはすべてを愛し、すべてを知っておられることを信じていたので、その神さまに頼ることができることは慰めでした。しかし、思春期では、それが突然変わりました。

十代になると、私は性別違和の拷問によって苦しめられるようになりました。どれほど私は、男性の体と男性的な外見を憎んだことでしょう。それは私が感じている内側の女性らしさと噛み合わず、適合できませんでした。神さまが本当に私を愛しているなら、どうしてこのようなことが起こることを許すのでしょうか？ 聖書から導きをもとめた私は、もっと落胆しました。レビ記18:22「あなたは女

と寝るように、男と寝てはならない。これは忌みきらうべきことである」忌み嫌われるとは、適切な描写でした。内側と外側が噛み合わず不自然な私は、完全に気が狂っていると感じました。しかし、どうすればいいのか？ 私は解決を探しました。

そして性別適合手術を知り、これが最高の解決になると信じました。それはバラバラになった私自身を一致させ、合体するチャンスでした。1980年に中学校を修了した後、私はすぐに精神科医と外科医を受診し助言を求めました。手術のために、私は適性を決定するテストを受け、結果は手術できる段階であるという判断でしたが、大きな問題がありました。それは私の年齢が法定年齢以下だったので、親の同意書が必要だったことです。私の両親は同意しませんでした。

一方、私はさらなる勉強をするために高校へ行きました。高校の4年間で、私は究極の目標である性別適合手術を受けるために、女性のアイデンティティーを取り入れ、自分自身を造り変えました。私は学生課の担当に相談し、彼にすべてを打ち明けました。彼は私をととても良く理解し支えてくれました。私は感動しました。心の深いところで、これらの背後に神さまがいてくれたのかと、不思議に思いました。たぶん、私が女性になることは神さまのみこころだと思いました。男性として扱われていた中学校を離れてからわずか半年で、私は髪を伸ばし、服装を変え、そしてホルモン療法を始め、女性の形を造り始めました。私は新しくされたと感じました。再生、創造、それは私にとって新しい始まりでした。かつてのように私の生活を異常に感じなくなり、外見上も内側で感じている私になりました。そして、人々は私に対して違う反応をするようになりました。中傷された名前やあだ名はすべてなくなり、私は「普通の人間」として尊敬を受け始めました。私は自尊心と自信を取り戻しました。私の痛みは過ぎ去り、ようやく問題の解決を見つけることができました。

しかしそんな日々は長く続きませんでした。時間が経つにつれ、他の問題が出てきました。私の社会や学校生活は素晴らしいものでしたが、なぜか私は疲れ果て、気持ちが落ち着かなくなりました。私の学問および社会の貢献にも関わらず、私の人生が無意味になっていくのを感じました。今日も明日もあさっても、むなしく空っぽで、私の人生がどこに行くのか、どこに向かっているのか目標や夢を見つけることができませんでした。私はなぜそのように感じるのか、理解できませんでした。私は勉強をよくして自分のキャリアのために準備もしていました。素晴らしい友人もでき、男性と女性の両方から尊敬をうけ、私の新しい人生がスタートしました。この世界で私は幻滅を感じる理由は何もありませんでした。しかし、私の人生を変える大問題が再び起こりました。

1984年3月に再び性別適合手術を受けたいと考えたのです。きっかけは私が卒業後に軍隊に入隊しなければならないことでした。この悪夢は、しばしば私を悩ませました。国のために男として仕えることは、死ぬことよりも苦痛でした。軍隊で屈辱や虐待を再び受けるよりも死を選ぶ方が良いと考えました。そこから救われる唯一の方法は、性別適合手術しかありませんでした。時期がせまり、それを今決断しなければならなくなったのです。しかし法的には数年前に断られた両親のサインが必要でした。彼らは多くの痛みと苦悩の中で最終的に承諾し、サインしました。私は神さまが確かに私を理解し、あわれみ深いことを再認識することができて、ホッとしました。

しかし両親がサインした後に、不気味で異常な感覚が私を包みこみました。私はなぜか希望を失い、絶望を感じる感覚に襲われたのです。それはとても異様でした。最悪なのは私が私を悩ませていたものが何なのか全くわからなかったことです。自分自身が変わる最終段階にあることを私は喜ぶべきなのに、現実には自分が不幸に感じ、こんなに憂鬱になる理由が分かりませんでした。私はこの感情を切り替えるために寝ようとしたのですが、眠れませんでした。毎夜、理由もなく叫びました。しかし、どんなに泣いて叫んでも次の日に気分が晴れることはありませんでした。精神的苦痛をもう一度味わうことになるのかと覚悟しました。

そして手術の3日前になったとき、その日がグッドフライデーだと気がつきました。その日はイエス・キリストの死と復活を記念する日です。クリスチャンのイメージが私の頭の中をよぎりました。若い時から、私は歴史的にイエスさまの生涯、死と復活の理由を教えられていました。イエスさまは私たちに

本当の豊かな人生を与えるためにこの世に来られました。そしてイエスさまは十字架の死を通して、その意味を示されました。それは父なる神さまが愛するわが子をあなたのために捧げたことによって、イエスさまを信じる人が、自分自身のために死ぬことと、自分の一番大切なものを神さまに捧げることでした。その後、イエスさまは三日目によみがえり、古い人に新しい生命を与えるとされました。イエスさまによって、私たちの生活の中で、私たちの目的と本当の満足を見つけるために復活されたということです。本当の満足は、私が一番望んでいることです。私は神さまに「あなたが本当に存在するのなら、今わたしに語ってください。」と叫びました。すると私は受け入れたくないひとつの聖書箇所を思い出しました。

申命記22：5 「女は男の衣装を身に着けてはならない。また男は女の着物を着てはならない。
すべてこのようなことをする者を、あなたの神、主は忌みきらわれる」

昔からこの聖句を知っていました。しかし、表面的にしか知りませんでした。以前、友人がこの聖句を用いて私に怒り、私を傷つけたことがありました。この聖句は絶対に受け入れることができないと思っていました。これは外見のことだけを言っていて、深い内面的なことまで見抜くものではないと思っていました。私は女装する前から、自分は少女だ感じていました。この聖句はなんの助けにもならないし、次に何をするかという実用的なアドバイスもなかったのです。それで私は今までこの聖句を無視してきました。しかしその金曜日、あの聖句は再び私を強くとらえました。そのとき、その聖句の意味が分かったのです。神さまは人を男と女とに造られ、異性の服を着ることを許されませんでした。

単純なことですが、「自分は男だった!」と気づいたのです。今まで内面の自分にしか気に留めていなかったのですが「自分は男だから男性の服を着るのだ」と素直に受け入れることができました。もし異性の服を着ることを主が喜ばれないなら、性別適合手術はもっと喜ばれません。その瞬間、私の目が開かれました。神さまは「手術をすることは、主のみこころに反する」と言われたのです。私はどうすればいいのですか？ 私は今まで何度も男性として生きようと試みてきましたが、傷と痛みだけが残りました。神さまは私を何のために、どうしてくれるのでしょうか？

しかし神さまのメッセージははっきりとしていました。『手術をすることは、主のみこころに反する』このことばを受け入れると、私の疑問、不安と混乱は無くなり始めました。私は今まで感じていたすべての喜びはとてもはかないものでした。私の学生時代の成功は、一瞬の喜びを与えてくれましたが、私は本当に満足できませんでした。私は外見を変えることにより、もはやセクシャリティで苦労しませんでした。いつも深い不幸の中にありました。性転換手術は私の何も変えないと思いました。私の人生最大の決断をしなければなりません。私は主のみこころを知ったことによって、これまでの人生を捨てることができるのでしょうか？ 私の感情を抑制し、私の内面の自分を無視し、私は今まで信じてきたすべてのものを投げ捨てることができるのでしょうか？ これから一体どんな人生になるのでしょうか。私はこの神さまを信頼するのか、それとも予定通りに手術をするのかという岐路に立っていました。私は私の人生を完全に神の手にゆだねる決心をしました。その瞬間、私は髪を切る勇氣と確信を得ました。私は髪を切り、タンスから女性用の服を片付け、生まれもった性＝男性を受け入れました。私は生まれ変わりました。そしてここから長い骨の折れる旅が始まりました。

あれから27年がたちました。初めの頃は、私の男性としての役割や確信に戸惑い、途方にくれてしまい、幾度も壁に直面しました。私は古い心地よい思考を捨てて、男性としての新しい態度や行動、思考パターンを見つけなければなりません。私は押しつぶされそうになり、あきらめたくなることもありました。今でも、たまに女性であることを願うことがあります。本当に心が荒れて、前をみることが難しかった時もあります。しかし生活の中で戦いが続いています。この葛藤に気づき、受け入れることができます。私の個人的な、内なる性意識の戦争はこのように矛盾しています。私が苦しいことや強烈なトラウマ、この非常な痛みに耐えることができるのは、今まで感じたことのない深い感覚の喜びと達成感を経験したからです。神さまは私に幸福と希望を与えてくださり、確実な目的へと導きます。このことを信じ頼ることはすばらしいことです。私は今でも葛藤はありますが、私のこの試練と誘

惑の中でひとりではありません。私は絶望の状況でももう鬱になりません。私は人間の理解を超えた心の平安を見つけました。私の将来を再び明らかにするために、たとえ自分自身がどのように感じていても、自分の置かれている環境の上に働く神さまの力を学ぶことができました。私は自分を解放し続ける、シンプルで確かな真理を発見しました。 私は自分の生きてきた道を選ぶことはできないし、私を形成してきた過去の出来事を変えることもできません。しかし、私は過去の束縛から自由を選ぶことができます - だから私は自由を選びました。

レスリー・ルング マイライフは、男、女として...男再び (©2000) :

FOC 2011.11.からの抜粋 ©許可で使用される。すべての権利を保有。

多くの証があるサイトです。

◆ おかえりなさい

<https://www.okaerinasai-jp.com/home>

証しのページ

<https://www.okaerinasai-jp.com>

◆ NBUS : 性の聖書的理解ネットワーク

<https://www.nbusjapan.com>

最新情報

https://www.nbusjapan.com/news/cat_news/reference/